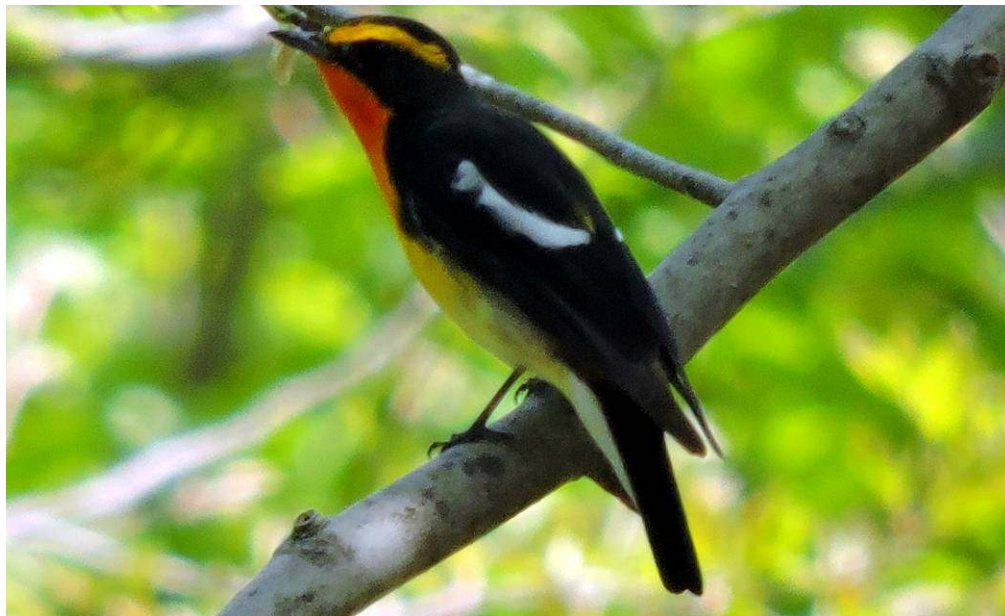


キ ビ タ キ

Ficedula narcissina



分類	スズメ目ヒタキ科ヒタキ亜科”													
特徴	黄色い胸を張り、鮮やかにさえずる広葉樹林の鳥。夏鳥として渡来し、ほぼ全国の丘陵や山地で繁殖し、普通。国外ではサハリン、南千島、中国の一部で繁殖している。渡りの時期には、市街地でもよく観察される。													
生活	ヒタキ類はフライングキャッチが主な採餌方法である。キビタキの場合は広葉樹林の中ほどの枝にとまり、林の中を飛ぶ虫をねらう。そのためキビタキの棲息する林の条件としては、木がある程度大きくて樹冠の下に空間が開けていること、中層から下層がある程度茂っていることが必要である。オスがさえずる時も林の中ほどの枯れ枝にとまり、木の梢に現れることはない。													
声	繁殖期には「ポツピリリ、ピピロピピロピピロ」など、変化に富む美しい声でさえずる。また「ピツピクオーシー」とセミのツクツクボウシのような声も出す。同じ声を繰り返して鳴くのが特徴の一つである。「フィヒヒ、フィヒヒ」とやさしく鳴くこともある。地鳴きは「ピツピツ」とか「クルル」と聞かれる声である。													
見分け方	オスは黄色い眉斑と翼の白い紋、黄色い下面が特徴。メスはオリーブ褐色で目立つ模様はない。													
時期	(月)	-	-	-	4	5	6	7	8	9	10	-	-	
その他	全長(L) 14cm 翼開長(W) 22cm													
参考文献：山溪カラー名鑑　日本の野鳥														